

# 方向性イメージ図 (追記版)

※ より具体的なイメージを持って議論を進めるために、これまで検討会に提出された資料や委員の発言  
をもとに追記したもの

# 方向性①

＜対象とする疾患の範囲＞

放射線の影響が認められている全ての固形がん、白内障、心筋梗塞、甲状腺機能低下  
傷害、肝機能障害、子宮筋腫など。熱傷瘢痕、免疫力低下などで重症化した外傷など

加算後の最高額は現行の  
医療特別手当相当

## 区分3

(放射線治療、抗がん剤  
などの治療を受けている  
場合等)

被爆者(手帳所持者)全員に  
手当を支給

## 区分2

(内視鏡を用いての切除、  
重い副作用を伴わない服  
薬治療の場合等)

区分1  
(治癒した場合)

## 疾病や治療内容により加算

※熱傷瘢痕の場合は、瘢痕の部位、度合い  
などにより加算1あるいは加算2

被爆者手当（健康管理手当相当）

被爆者援護手帳所持者

## 方向性②

手当の水準は、社会保障制度全体の整備状況、これまでの被爆者に対する援護措置の拡大の状況を踏まえ検討

### 2種原爆症の手当は段階的

※既に確立している既存の各種基準を参考に設定。(入院医療では、医療必要度とADLの組み合わせ、介護保険では要介護、要支援度、年金制度や傷害福祉分野での障害認定など)。医療必要度を基本に、他の基準などを参考に、個別総合的に認定。

- 有効期間を設けて、一定期間ごとに再審査、認定更新。(例 介護保険では6ヶ月又は1年を原則)
- 状態が重くなれば高いランクの手当、軽くなれば低いランクの手当に変更。さらに症状が軽くなった場合等は支給停止もあり得る。

### 健康管理手当

1種にも適用するが、2種とのバランスを考慮して認定(既に認定を受けた者については、一定の経過措置)

### 2種原爆症

新たな基準として、放射線起因性を否定しきれない人を、医療必要度を念頭に第2種とする

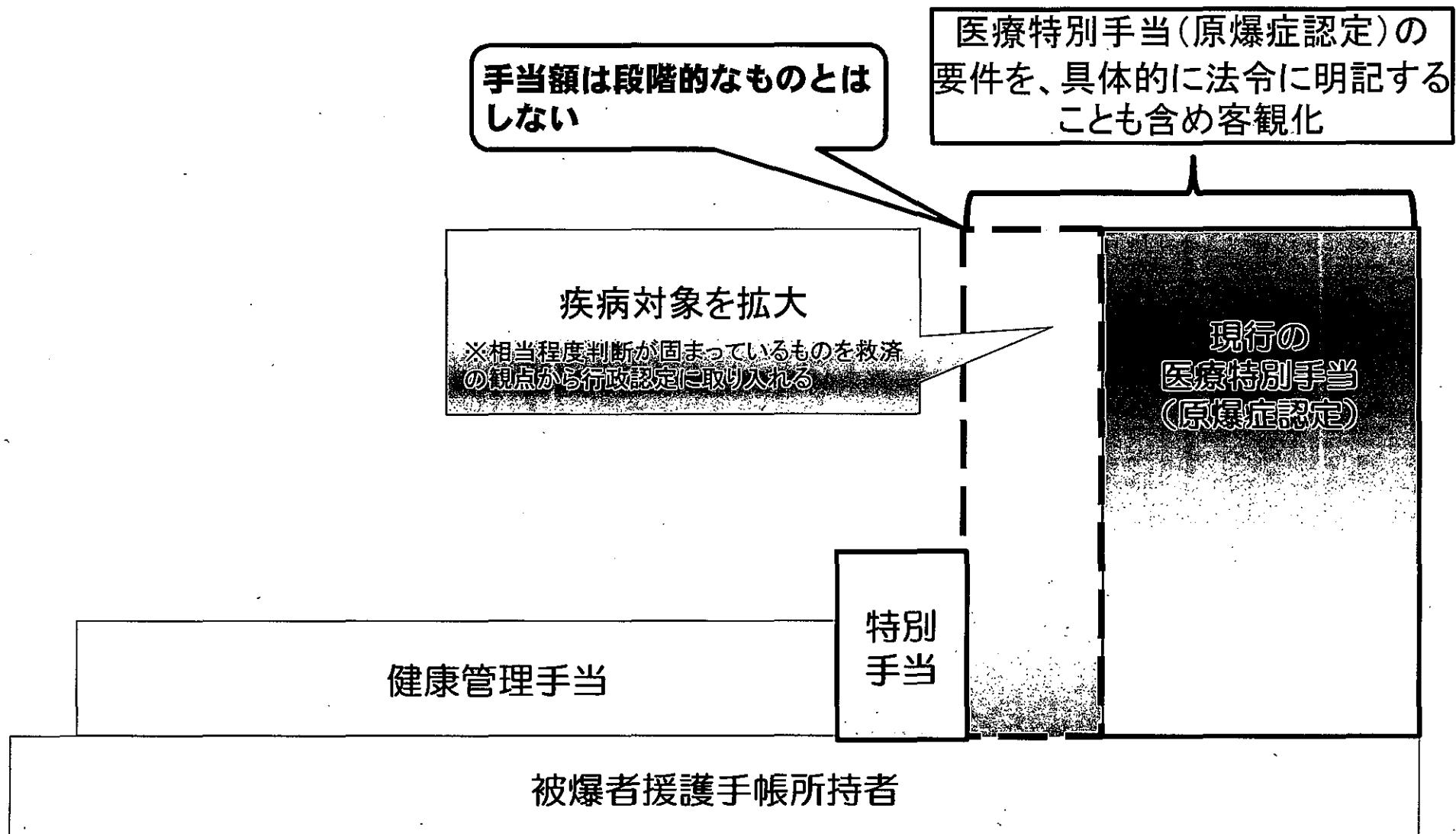
### グレーゾーン

### 1種原爆症

(現行制度を基本に認定)

### 被爆者援護手帳所持者

## 方向性③



## 方向性②+③

手当額は疾病の重篤度を踏  
まえた段階的なものとする。

医療特別手当(原爆症認定)の  
要件を具体的に法令に明記する  
ことも含め、客観化

### 疾病対象を拡大

※相当程度判断が固まっているものを救済  
の観点から行政認定に取り入れる

- ・距離要件については、既にグレーデー  
ンを含んでいる
- ・疾病については、科学的な知見が認め  
られるものを取り入れていく
- ・適切な見直しを行っていく

医療特別手当  
(原爆症認定)

特別  
手当

健康管理手当

被爆者援護手帳所持者